

地域担う農家に

島原農高「若葉の会」結成式

島原市の県立島原農高で27日、家業を継ぐなどして農家を旨とする生徒41人が参加する就農プロジェクト「島農若葉の会」の結成式があった。地域を担う農業者の卵を就農前からサポートしよう、農業振興に携わる県や島原半島3市の担当者ら14人が来賓で出席した。

同様の組織ができるのは県立諫早農高に次いで県内2校目。島原農高の全校生徒3886人のうち、1年生14人、2年生15人、3年生12人の計41人が参加し、北海道などの先進地の農家で実習したり、別の農業高校に向いて就農志望の生徒らと交

流したりする。

結成式では、前田達彦校長が「古里に残り地元活性化に貢献し、島原半島をさらに元気にしてもらうことを期待している」とあいさ

つ。各学年の代表1人ずつが決意表明し、2年生の本田星七さんは「祖父が作っていて父の代でやめてしまったブドウ栽培に挑戦したい。高校で学んだことを最大限生かし、規模拡大と品質向上に日々努力したい」と語った。

【近藤聡司】



結成式で決意表明を述べる生徒